

発表・質疑		研究代表者 (代理出席者)		研究課題	研究期間
(11)	13:15-13:30	一般公募型	加藤 真吾	HIV検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究	24-26

研究課題： HIV検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究

研究代表者： 慶應義塾大学 加藤真吾

評価委員のコメントに対する取組み

【評価できる点、推進すべき点】

- HIV 検査相談体制の確立はきわめて重要な課題である。
- HIV 感染症の検査相談体制の充実を図るため、総合的、多面的に利用機会を促進する体制を構築することを目的としている。
- 現在の感染者、患者の激増傾向をみると、多くの若者に検査を与える方法として重要。
- 多面的な方法で HIV 検査相談を充実、利用機会の拡大を促進、HIV 感染の早期診断・治療・発症予防の機会を提供するというもので、期待したい。代表申請者の業績が振るわないのが注視される。奮起を期待する。
 - HIV 感染症に対する治療をより効果的するためにも、新たな感染者の増加を抑えるためにも、HIV 感染の早期診断が重要であることは言うまでもありません。感染リスクがある人を中心に、なるべく多くの人に HIV 検査を受けてもらうためには、利便性の高い HIV 検査相談体制の確立がきわめて重要です。
 - ところが、2009 年以降、保健所等における公的な検査相談件数の減少傾向が続いています。公的な検査相談体制の充実と拡大のための努力は今後も必要ですが、検査相談件数の飛躍的な増加は難しいのではないかと考えます。
 - HIV 検査相談機会の拡大を今以上に促進するのであれば、病院・診療所における医療者主導の検査提供、郵送検査の活用、などを推進する必要があると考えます。
 - 研究業績寡少に対する叱咤激励のお言葉ありがとうございます。研究班の成果を根拠にもとづいて HIV 感染対策の立案や実施に活用していただくためにも、研究成果を学術論文として発表することに邁進努力いたします。
 - HIV 感染の早期診断を促進し、エイズのない社会が一日でも早く到来するように努力いたします。

【疑問点、改善すべき点その他助言等】

なし

【倫理性について改善を要する点】

なし

研究計画の要約

本研究は、HIV 検査相談を充実させ、その利用機会の拡大を促進することにより、HIV 感染者をより早期に診断し、早期治療・発症予防の機会を提供するとともに、行動変容と抗 HIV 治療による感染拡大の抑制を図るため以下の三課題に関する各項目の研究を行う。

(1) HIV 検査相談の利用機会を促進するための研究

- ①ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談の情報提供と検査促進ツールの開発
- ②保健所等における HIV 即日検査のガイドライン作成
- ③HIV 検査相談の研修ガイドラインの作成・普及と講師養成に関する研究
- ④民間クリニックにおける HIV 検査相談機会を充実させるための研究
- ⑤唾液検査キットを用いた HIV 検査相談の実施に関する研究
- ⑥検査手帳ツールの活用による MSM の HIV 感染予防支援に関する研究：自己健康管理ためのツールとして STI 検査手帳を作成し、南新宿検査相談室の MSM 受検者に配布し活用
- ⑦歯科受診者に対する検査相談機会の検討：歯科医院内掲示ポスターの配布、地域歯科医師会と連携による歯科医師による HIV 検査勧奨の促進

(2) HIV 検査相談体制の実態を把握するための研究

- ①全国一般病院における HIV 検査普及率の実態調査：我が国初の医療者主導 HIV 検査の疫学調査：院内感染対策のための検査の有効性を評価
- ②HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査
- ③献血者への働きかけにより感染リスクのある献血者を HIV 相談機会に繋げるための研究(24-26 年)
- ④各地方自治体の検査相談事業の実態把握に関する研究：北海道、東京、神奈川、大阪の地方衛生研究所に集まる HIV 検査に関する情報から検査相談事業の実態を把握
- ⑤自己検査キットの国際的普及に関する調査研究

(3) HIV 検査技術の向上に関する研究

- ①各種 HIV 検査法の評価と応用：各検査法の性能をもとに HIV 検査プロコールを整備する
- ②HIV-2 核酸検査法の精度管理：標準品調製とプロコールの確立、各研究機関の in-house 検査法の精度管理の実施
- ③地方衛生研究所、エイズ拠点病院等の HIV 検査担当者を対象とした HIV 検査技術研修会の実施

発表・質疑			研究代表者 (代理出席者)	研 究 課 題	研究 期間
(12)	13:30-13:45	一般公募型	嶋田 憲司	地方公共団体及びNGO連携による個別施策層を含めたHIV対策に関する研究	24-26

地方公共団体とNGO連携による個別施策層を含めたHIV対策に関する研究

研究代表者 嶋田 憲司(特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)

研究分担者 河口 和也(広島修道大学)、大石敏寛(特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)

1 研究の目的と枠組み

本研究は、「地方公共団体とNPO/NGO(以下、NGO)との連携(以下、NGO連携)」を進めることと、NGOがHIV対策にもたらす効果を広く普及することで、その成果をエイズ予防指針に掲げられている「発生の予防やまん延の防止」、「普及啓発及び教育」、「検査・相談体制の充実」、「人権の尊重」等に活用し、エイズ施策に貢献する。

研究は、研究1「地方公共団体とNGOによるHIV対策の実態把握と効果の普及」、研究2「地方公共団体とNGOによるHIV対策の実践を活かした検査相談体制ならびに個別施策層への啓発普及の充実」の二つの枠組みで実施する。

2 研究計画及び方法

【研究1】

研究1-1:地方公共団体のNGO連携によるHIV対策の推進に関する調査

①地方公共団体に対する質問票調査

保健所を設置している地方公共団体(139 団体)を対象とする質問票調査により、NGO 連携の状況と課題、具体的事例、連携の進捗状況を確認する。調査は、ベースライン調査、先行研究成果物の効果測定、平成 21 年度に実施した同調査との経年比較の順に実施する。

②地方公共団体に対する事例的調査

NGO 連携による HIV 対策を実施している地域を対象に、事例化と NGO 連携の効果と課題の確認のために、担当者への面接・質問票調査を行い、連携の効果と課題の抽出、連携事業の観察、効果評価を実施する。

研究1-2:NGO 連携による検査事業の効果評価指標に関する調査

①NGO に対する連携検査事業の質的・量的調査

既に検査事業連携を実施している NGO を対象に面接調査を実施し、NGO 連携による検査事業の特徴的な効果を確認し、事例化する。さらに、NGO 連携検査事業の効果指標を策定する。また、策定した指標を用い、複数の地域・団体で事業実績の評価及び受検者への質問票調査を実施し、NGO 連携による検査事業の効果を確認する。

【研究2】

研究2-1:地方公共団体とNGO連携によるHIV対策の実践を活かした検査相談体制の充実

①連携・協働による検査相談事業の実践と事例の普及

先行研究で達成したさいたま市・中野区・埼玉県での HIV 検査相談事業において、NGO の相談体制を活用した各個別施策層(一般層、青少年、MSM、性風俗産業従事者・利用者等)の特性に配慮した『効果的な予防相談の実施手法の策定』、MSM 向けの広報やコミュニティへのアウトリーチを充実させ、MSM の利用機会が高い検査場を運営することによる『個別施策層の受検機会の拡大』を実施する。

②NGO 連携検査相談マニュアルの作成

検査事業において NGO が持つスキルや効果について、インタビュー、事業見学、複数の地域における同じ評価軸での質問票調査を実施し、NGO 連携が検査事業にもたら

す利点を確認し、NGO が持つ具体的な啓発手法や検査相談手法をマニュアル化する。

③受検者への受検に関する意識・特性調査

受検者への質問票調査により、受検に関する意識、リスク行動、知識、検査後の行動変容意図等を調査し、個別施策層別の特性、予防情報の所持による状況の差を明らかにし、事業改良・手法の開発に役立てる。

研究2-2:地方公共団体とNGOによるHIV対策の実践を活かした個別施策層対策の充実

①NGO 連携によるMSM向け普及啓発の実践

地方公共団体とNGOの連携のもとにMSM向け普及啓発を実践する。また、参加者への経年評価を実施し、知識の維持、コミュニティ内での行動、予防知識の伝播状況等を調査し、事業を改良する。

②人権擁護・法的支援のプログラムの開発

NGO が本来行ってきた相談・支援活動の調査と効果を確認し、陽性者及びMSMの人権擁護・法的支援プログラムを開発する。

③MSM向けのHIV感染リスク要因等調査

普及啓発参加者及びMSMコミュニティを対象にリスク要因及び人権に関する意識調査を実施し、現在最も課題となるリスク要因、人権に関するニーズを明らかにし、事業実施に役立てる。

研究2-3:NGO 連携による事業の効果評価に関する研究

地方公共団体とNGO(動くゲイとレズビアンの会)が実施している検査事業、MSM向け普及啓発事業の効果評価を実施し、事業を改良する。検査事業は保健所単体実施との事業比較及び受検者への質問票調査、普及啓発は、参加者向け質問票調査(前後、1ヶ月後)を実施する。

3 評価コメントに対する取り組み

【評価できる点、推進すべき点】

MSM向けの対策については、NGOとしての経験と研究班として継続させていただいた経験をもとに研究を進めてまいります。NGO 連携については、改正された予防指針においても強調されている点について、様々な団体が積み重ねてきた経験の具体化に努力いたします。

【疑問点、改善すべき点その他助言等】

予算については、全国で連携を実施している各地域への直接訪問による取材や見学による調査、他地域の団体との協働による効果評価、各地域のMSMコミュニティに向けた調査を予定しており、必要な費用を計上させていただきます。成果の報告については、専門家の査読・指導を受けながら論文化及び実践事例報告の作成を進行中です。

4 期待される効果

NGO 連携の具体的な事例化により、「NGO 連携の意義」が明確化される。また、NGO が実施主体であることで、NGO 連携による HIV 施策の新規開発と実践が容易になること、保健所検査への相談・予防介入スキルの普及が可能となること、個別施策層の実情に即した実践的かつ実効性のある普及啓発が可能となることが期待される。

発表・質疑		研究代表者 (代理出席者)		研究課題	研究期間
(13)	14:00-14:15	一般公募型	樽井 正義	地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究	24-26

地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究 (H24-エイズ一般-013)

研究代表者：樽井 正義（ぶれいす東京/慶應義塾大学） 分担研究者：生島 嗣（ぶれいす東京）、大木 幸子（杏林大学）、肥田 明日香（アパリ・クリニック上野）、若林 チヒロ（埼玉県立大学）

研究目的

本研究は、HIV 陽性者と薬物使用者に対する地域における支援策の提言を目的とする。近年、HIV と薬物使用の相関は看過し得ない事態となり、新たなエイズ予防指針でも「薬物乱用者」が個別施策層の一つとして明示されている。

これまでのエイズ対策研究では、薬物使用を含むメンタルヘルスを視野に入れた陽性者支援の課題は、ほとんど検討されていない。そのため、エイズ拠点病院や保健所では、陽性者の薬物使用の実態に関する情報が不足しており、同時に精神保健福祉センター等では、HIV と陽性者に関わる情報が求められている。

本研究では、HIV 陽性者と薬物使用者の支援に関して必要とされる情報を調査し、地域の医療諸機関、相談諸機関、NGO 等により陽性者のメンタルヘルス等の促進をはかる資材を開発するために、6つの分担研究を実施する。

- HIV 及び精神保健の専門機関における支援と連携に関する研究（大木）
- 地域相談機関における HIV 陽性者、薬物使用者へのサービス提供に関する研究（生島）
- NGO 等における HIV 陽性者、薬物使用者への支援の研究（樽井）
- HIV 陽性者のメンタルヘルスと社会生活に関する研究（若林）
- HIV 陽性者とメンタルヘルスに関する支援についての研究（生島）
- 薬物依存症治療施設における HIV 陽性者診療の状況調査（肥田）

3カ年の研究計画とその方法

第1年度(2012年)

- エイズ拠点病院（首都圏及び京阪神圏 n=117）、保健所（全国 n=495）、保健センター（政令指定都市 n=180）のエイズ及び精神保健の担当者を対象に、精神保健課題をもつ HIV 陽性者への支援状況を質問紙により調査する。
- 地域の相談機関（東京都 n=964、大阪府 n=878）の窓口担当者を対象に、HIV 陽性者への支援、薬物使用者への対応の状況を質問紙により調査する。
- NGO を対象に、薬物使用経験をもつ HIV 陽性者及び HIV 陽性の薬物依存者への支援の現状と課題を調査するために、質問紙を作成する。
- HIV 陽性者を対象に 2008 年に実施した質問紙調査（n=1203）の結果を、メンタルヘルスを切り口に再分析し、陽性者における薬物使用を含む精神保健課題の現状と課題を調査するために、質問紙を作成する。
- 薬物依存をかかえる、あるいは薬物依存から回復した HIV 陽性者（n=20）を対象に、半構造化面接を行い、薬物使用の開始状況、関連する背景要因等について実態を把握する。
- 薬物依存症治療施設を受診している HIV 陽性の薬物依存患者について、紹介ルート、HCV/HB/梅毒等の罹患、精神症状等のデータから、薬物使用と HIV 感染の背景要因を探るために、予備的調査と検討を行う。

第2年度(2013年)

- 精神保健福祉センター（都道府県及び政令指定都市 n=68）を対象に、支援状況の質問紙調査を行い、支援事例を経験している拠点病院、保健所等の担当者（n=10）に面接調査を行う。
- 地域の相談機関に対する質問紙調査の結果を回答者の一部にも還元し、HIV 陽性者及び薬物使用者への対応の現状と課題を検討する。
- NGO（n=50）を対象に、薬物使用経験をもつ HIV 陽性者及び HIV 陽性の薬物依存者への支援の現状と課題を、質問紙により調査する。
- エイズ拠点病院（約 10）の協力を得て、外来の HIV 陽性者（約 2 千名）を対象に、社会生活及び薬物使用を含む精神保健の現状について、調査紙により調査する。
- 薬物使用の経験をもつ MSM（n=20）を対象に、半構造化面接を行い、薬物使用の開始状況、関連する背景要因等について実態を把握する。
- 薬物依存症治療施設を受診している HIV 陽性の薬物依存患者（n=50）について、薬物使用と HIV 感染の背景要因を探るために、カルテのデータを用いて後ろ向きに調査する。

第3年度 (2014年)

6つの分担研究により 2年間に集積された成果を共有し、HIV 感染症の予防と治療の施策推進に寄与する 2つの資材を作成する。

- 地域の医療諸機関、相談諸機関、NGO 等による HIV 陽性者と薬物使用者の支援に資するハンドブック。薬物使用を含む精神保健課題を併せ持つ HIV 陽性者支援における留意点、モデル支援事例、地域資源リスト等を含む。
- HIV 陽性者、薬物使用者、その周囲の人に向けた HIV とメンタルヘルスに関する啓発ツール（パンフレット）。

事前評価委員のコメント【疑問点、改善すべき点、その他助言等】

・ HIV 関連機関へのアンケート調査が主な手法なので、今まで以上に期待できるような結果がだせるか疑問が残る。

質問紙調査には、2003 年以降断続的に行っている調査と、薬物使用を含む精神保健の新規調査が含まれる (a, b, d)。

・ わが国の薬物依存者における HIV 感染者は際めて少ないが、まずその実態や患者数を把握することが求められる。

本研究では、HIV 陽性者の薬物使用を含む精神保健の実態に関する質問紙調査 (d)、並びに感染及び薬物使用の背景要因について、薬物使用経験をもつ陽性者の面接調査 (e) 及び陽性の薬物依存者のカルテ調査 (f) が計画されている。

発表・質疑			研究代表者 (代理出席者)	研究課題	研究 期間
(14)	14:15-14:35	指定型	木村 哲	血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究	24-26

血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究

研究代表者 木村 哲 (エイズ予防財団 理事長)

評価委員コメントに対する回答

評価できる点、推進すべき点

- ・ 血友病関連 HIV 感染者の長期療養体制整備のために必須の研究である。
- ・ 政策的に重要なもの。指定型は当然。
- ・ 血液製剤による HIV 感染者の長期療養体制整備。
- ・ 患者のニーズなどを直接得て医療、看護、ケア、介護、支援等に結び付ける患者参加型のプロジェクトで、申請者はこれまで、実績を積み上げて来ており、成果を期待したい。

回答

期待に応えられるよう、HIV 感染血友病等患者のニーズを中心に据え、長期療養に必要とされる医療、看護、ケア、介護、支援等の体制を充実させて行きたい。

改善すべき点

- ・ プロジェクトはやや規模が大きく総花的になる可能性があるため、幾つかの重要な領域に収斂したものにする必要があると思われる。

回答

研究計画を策定する段階で、HIV 感染血友病等患者のニーズの聞き取り調査を行うと共に、先行研究の内容も考慮し、それらの中から重要と思われるものをサブテーマとして選択した。長期療養に伴う患者のニーズが多岐にわたるため、ある程度幅広にならざるを得ないが、本研究のサブテーマは「患者の実態調査（ニーズの発掘）」、「HCV 重複感染の評価と治療」、「リハビリテーション法の普及」、「医療・看護・福祉の連携」に絞っている。今後、「患者の実態調査」でのニーズを参考に、更に収斂できないか検討して行きたい。

研究組織

研究代表者:木村 哲(エイズ予防財団)	
分担研究者	
柿沼章子(はばたき)	三田英治(大阪医療セ)
田中純子(広島大)	江口 晋(長崎大)
照屋勝治(ACC)	藤谷順子(国際医療セ)
上平朝子(大阪医療セ)	大金美和(ACC)
遠藤知之(北大)	中根秀之(長崎大)
四柳 宏(東大)	潟永博之(ACC)

研究目的と特色

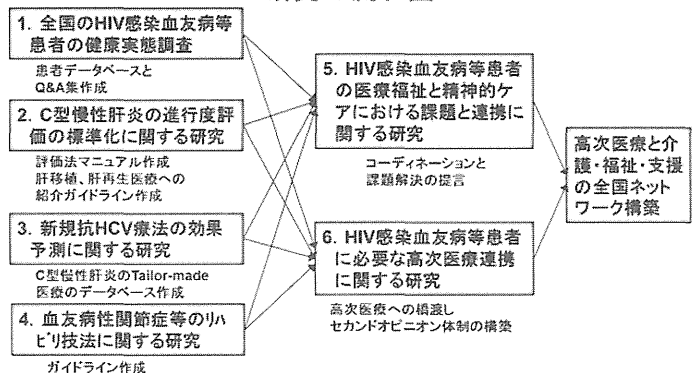
HIV感染血友病等患者が抱えている諸問題の解決・改善を目指し、長期にわたり安心して療養に専念できる体制を整備・確保することを目的としている。

患者の現状とニーズを知るために、患者から直接、情報を得、医療、看護、ケア、介護、支援等に結び付ける患者参加型の研究であることが大きな特色と言える。

研究のサブテーマと役割分担(敬称略)

1. HIV感染血友病等患者の健康状態・日常生活の実態調査(柿沼、田中、照屋、上平)
2. C型慢性肝炎の進行度評価の標準化(遠藤、潟永、四柳、三田、江口)
3. C型慢性肝炎の新規治療法の効果予測(四柳)
4. 血友病性関節症等のリハビリテーション技法に関する研究(藤谷)
5. HIV感染血友病等患者の医療福祉と精神的ケアにおける課題と連携に関する研究(大金、中根)
6. HIV感染血友病等患者に必要な高次医療の連携に関する研究(潟永)

研究の流れ図



発表・質疑		研究代表者 (代理出席者)	研究課題	研究期間
(15)	14:35-14:55	白阪 琢磨 (渡邊 大)	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	24-26

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究班（研究代表者 福武 勝幸先生）

HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究（H24—エイズ—指定-002）

研究代表者 白阪琢磨（独立行政法人国立病院機構大阪医療センター）

1. 評価委員会のコメントに対する取組み

【評価できる点、推進すべき点】

- ・ 医療機関と NGO/NPO 連携プラットフォームの構築は重要な課題であり、必須と考える。
 - ・ この研究者とこの構成員でないと出来ない研究と考える。
 - ・ HIV 感染者に対する総合的な医療体制の構築に資する研究である。
 - ・ 多職種連携による適切な医療促進の基盤造り。
 - ・ これ迄着実に成果を挙げて来ており、チーム医療、ケアの在り方などを検討してマニュアルや治療のガイドラインの作製等を継続的に行って来ており、更なる奮闘を期待する。
- 得られた知見を着実に論文にまとめて来ている点も評価して良い。

【疑問点・改善すべき点その他助言等】

- ・ 精神疾患、透析、長期療養、在宅療養などの検討を。

いずれも貴重なご意見を賜り有り難うございます。ご意見を尊重し研究を進めて参ります。

- ### 2. 研究計画の要約
- HIV 感染症は治療の進歩によって慢性疾患となったが、未だに多くの課題がある。厚生労働省は前年度、いわゆるエイズ予防指針の見直し作業で、現状と課題を明らかにし、今後のエイズ施策の方向性を示した。同作業班の報告書で、医療提供体制の問題点として「各ブロックの現状に応じた医療提供体制の構築が依然としてなされていない」と指摘し、見直しの方向性の要点に「中核拠点病院を中心とした、地域における診療連携の強化」を掲げた。同指針の見直しには、指針第三 普及啓発及び教育の項で、医療従事者等に対する教育、第五 医療の提供の項で、医療提供体制の充実、良質かつ適切な医療の提供及び医療連携体制の強化、主要な合併症及び併発症への対応の強化、長期療養・在宅療養支援体制の整備、人材の育成と活用、個別施策層やその他の施策の実施、個別施策層に対する施策の実施、日常生活を支援するための保健医療・福祉サービスの連携強化の7項目の見直しが述べられた。本指針作業班の報告書を踏まえ、当研究班は、特に合併症及び併発症への対応、長期療養・在宅療養支援体制の整備、ならびに、多職種連携によるケア提供の充実のための研究を遂行し、併せて地域医療における NPO/NGO 等との連携の在り方についても検討を行う。

【他の研究班との研究区分】 医療体制整備研究班との研究区分については、当研究班は地域で中核拠点病院、拠点病院、一般病院さらに NPO/NGO との連携の中で、拠点病院から一般病院さらに NPO/NGO の連携での、一般医療機関の診療機能に応じて患者に良質かつ適切な医療を提供する基盤作りのモデル構築を目指す。

	発表・質疑		研究代表者 (代理出席者)	研究課題	研究 期間
(16)	14:55-15:15	指定型	江口 晋	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植適応に関する研究	24-26

評価委員のコメントに対する取組み

疑問点、改善すべき点その他助言等、として以下のコメントをいただいた。

「肝疾患を有するHIV感染者における肝移植の適応は認知されているのであるから目に見える実績を出す事が強く望まれる。申請にある研究計画は何れも新規性なく、どれほど具体的な成果が挙がるか全く不明である。工夫と奮起が望まれる。」

HIV単独感染者における肝移植適応は認知されてはいるものの、HCVが重複感染した場合の適応は未だ確立されたものとは言い難い。

前年度までの兼松班にて、肝予備能が良好なChild-Pugh Aの患者でもHIV/HCV重複例では門脈圧亢進症が増悪している例があり、肝移植の早期適応が考えられた。しかし、本点についての本邦の脳死肝移植評価システム上の措置は講じられていない。これは科学的なデータの研究が不足しているためである。

また、肝予備能が増悪しているChild-Pugh B,Cの患者でもHIV/HCV重複例では進行が単独感染に比べ加速化している可能性が論じられているが、本邦でのデータは乏しく、上と同様に本邦の脳死肝移植評価システム上の措置は講じられていない。

このように、HIV/HCV重複患者、特に血液製剤による感染患者では、HCV単独感染患者とは別途肝移植適応基準を確立すべきと考え、本研究を計画した。本研究班の切り口での研究を行わなければ、肝疾患関連死亡が増加している現状の患者救済には直接効果が少ないと考える。

研究計画の要約

(1) 要旨

本研究の目的は、長崎大学で集積したHIV/HCV重複感染者の肝検診のデータおよびエイズ診療拠点病院において過去に集積された肝機能データ、予後を解析し、同患者群への肝移植適応基準を確立する。

(2) 研究全体の計画と当該事業年度の計画との関係

平成24年

HIV・HCV重複感染者の肝機能・その他のデータ解析、HCV単独感染者との比較。特にChild-Pugh Aの患者につき、脳死肝移植登録評価を検討する。

平成25年

HIV・HCV重複感染者の肝機能・その他のデータ解析、HCV単独感染者との比較。特にChild-Pugh B,Cの患者につき、そのAからの増悪加速度を検討。脳死肝移植登録評価の再考の働きかけを行う。

平成26年

血液製剤によるHIV/HCV重複感染者に対する肝移植適応の確立

発表・質疑			研究代表者 (代理出席者)	研究課題	研究 期間
(17)	15:15-15:30	一般公募型	木原 正博	高リスク層のHIV感染監視と予防啓発及び内外のHIV関連疫学動向のモニタリングに関する研究	24-26

研究課題：高リスク層の HIV 感染監視と予防啓発及び内外の HIV 関連疫学動向のモニタリングに関する研究
 課題番号：H24-エイズ-一般-010

主任研究者：木原正博（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野）

分担研究者：荒川創一（神戸大学医学部附属病院感染制御部）、和田 清（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）、小林桜児（国立精神・神経医療研究センター病院）、中村亮介（東京都立松沢病院精神科）

1. 評価委員会からのコメント

【評価できる点、推進すべき点】①UNGASS レポートの報告書作成に必要な数字を把握していくことは、大変重要。②より積極的な啓発に国は経費も投じていくべき。③HIV 高リスク層に対する検査促進と予防啓発。④我国の高リスク層の HIV 感染及びリスク行動を監視、我国の HIV 流行に影響する各因子を系統的に収集・分析し予防啓発を促進するというもので期待したい。集積した情報はダウンロード可能な資料として、web 上に公開するというのは重要で、極めて妥当でその活用を推進する宣伝等の努力が望まれる。

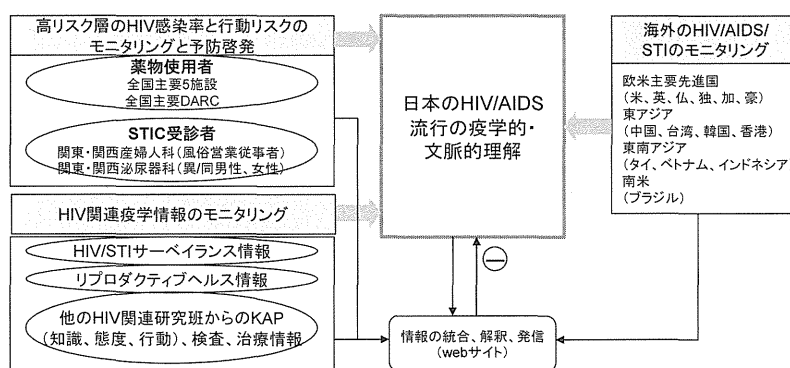
【疑問点、改善すべき点その他助言等】①同じ研究室から社会医学への応募があるが、1 つの研究事業から 2 課題採択されることに問題はないか。②効果的な方法を選んでください。

2. 研究計画

評価委員会のコメントにおいて、予防啓発への要請が大きいことに鑑み、薬物依存・乱用者と STI 患者のモニタリング研究を「予防啓発」的側面を強化した内容とする。

A. 薬物依存・乱用者に関する研究

1) 民間回復施設における薬物乱用・依存者の HIV 感染と行動リスクのモニタリングと予防啓発に関する研究（和田清）：6 つの DARC（入寮形式の薬物依存回復リハビリ施設）の入所者（新規、既存）に対し、無料の HIV、B/C 型肝炎、梅毒の検査を提供し、薬物使用行動や性行動（風俗利用やコンドーム使用等）に



ついて UNGASS 指標を含む質問調査を行う。啓発資材を開発し、全国の DARC（約 60）に配布する。

2) 精神科医療施設における薬物依存症者の HIV 感染と行動リスクのモニタリングと予防啓発に関する研究（小林桜児、和田清、中村亮介）：薬物依存者の治療を行い全国の主要 5 精神科医療施設と連携し、新規・既存の入院患者に対し、HIV、B/C 型肝炎、梅毒の検査を提供し、薬物使用行動や性行動（風俗利用やコンドーム使用等）について UNGASS 指標を含む質問調査を行う。啓発資材を開発し退院者に配布する。

B. 性感染症患者の HIV 感染と行動リスクのモニタリングと予防啓発に関する研究（荒川創一、木原正博）：関東（東京、川崎）、関西（大阪）等の主な STI クリニック（産/泌）において、研究期間（9 月以降）内の受診者に、無料の HIV 検査を提供し、HIV/STI 関連知識・性行動に関する UNGASS 指標を含む質問調査を行う（年間 800 サンプル程度を予定）。STD 患者向け啓発資材を開発し、広汎に配布する。

C. 国内・海外の HIV 関連情報の関連情報の収集・分析に関する研究（木原正博）：1) 国内関連情報の収集・分析：①出入国関連データ（出入国統計）、②薬物・風俗関連データ（警察白書）、③個別施策層の性行動・知識関連データ（他研究班報告書）、④薬事工業生産動態統計（コトーム）、⑤感染症動向調査（STI）、⑥母性保護統計、⑦妊婦の HIV 感染率（他研究班報告書）の情報を経年的に収集し、UNGASS 指標を含め分析する。2) 海外関連情報の収集・分析：東アジア（中韓香台）、東南アジア（タイ、インドネシア、ベトナム）、南米（ブラジル）について、担当部署と連携し、HIV/AIDS/STI 動向調査データを収集する。欧米については、米英独仏加豪について、インターネット公開情報もしくは関係部局から、HIV/AIDS 報告数を入手する。

D. Web データベースの構築（木原正博）：収集情報を Excel に蓄積し、予防啓発に有用な情報（エイズ動向調査、出入国統計、STI 感染動向、海外の HIV/AIDS 動向）については、ダウンロードできる PPT ファイルを作成し、Web（<http://www.aidssti.com>）上に公開する。

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
平成24年度 研究成果発表会
プログラム

日時) 平成25年2月9日(土) 9:50-14:40

場所) 東京医科大学病院
第一研究教育棟 4階 第2講堂
東京都新宿区西新宿 6-7-1
電話:03(3342)6111

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究
研究代表者:福武 勝幸

事務局: 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学病院 臨床検査医学講座
TEL: 03-3342-6111 FAX:03-3340-5448
E-mail: fukutake@tokyo-med.ac.jp

平成24年度 エイズ対策研究事業 研究成果発表会 プログラム

平成25年2月9日(土) 会場 第一研究教育棟 4階 第2講堂

9:50-10:00 開会 福武 勝幸(企画・評価班 研究代表者)
挨拶 満屋 裕明(評価委員会 委員長) 、大淵雪栄(厚生労働省健康局疾病対策課)

	研究代表者名	課 題 名	研究期間
(1)	10:00-10:17 湯永 博之	安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	23-25
(2)	10:17-10:34 片野 晴隆	エイズ患者におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスが原因となる疾患の発症機構の解明と予防および治療法に関する研究	23-25
(3)	10:34-10:51 明里 宏文	HIV-1感染・発症霊長類モデル研究:宿主内因性及び獲得免疫解析に基づく前臨床評価システムの最適化	23-25
(4)	10:51-11:08 市川 誠一	MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究	23-25
(5)	11:13-11:30 宮澤 正顕	APOBEC3分子のタンパク質レベルの機能性多型を基礎としたHIV-1複製抑制機構の分子基盤の解明	23-25
(6)	11:30-11:47 日高 庸晴	HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究	23-25
(7)	11:47-12:04 岡 慎一	多施設共同研究を通じた新規治療戦略作成に関する研究 昼食 兼 討議	22-24
(8)	12:30-12:47 岡田 誠治	HIV感染症に合併するリンパ腫発症危険因子の探索と治療法確立に向けた全国規模多施設共同研究の展開	22-24
(9)	12:47-13:04 佐藤 裕徳	HIVの構造、増殖、変異に関する研究	22-24
(10)	13:04-13:21 杉浦 互	国内で流行するHIV遺伝子型および薬剤耐性株の動向把握と治療方法の確立に関する研究	22-24
(11)	13:21-13:38 仲尾 唯治	外国人のHIV予防対策とその介入効果に関する研究	22-24
(12)	13:38-13:55 山本 政弘	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	22-24
(13)	13:55-14:12 武内 寛明	霊長類ゲノム情報を利用した抗エイズウイルス自然免疫因子の探索およびその新規エイズ治療法への応用	22-24
(14)	14:12-14:29 鳴海 哲夫	HIV侵入の動的超分子機構を標的とするケミカルバイオロジー創薬研究	22-24
	14:29-14:40 講評 閉会	満屋 裕明(評価委員会 委員長) 、大淵雪栄(厚生労働省健康局疾病対策課) 福武 勝幸(企画・評価班 研究代表者)	

※ 発表10分、質疑応答 7分 計17分

抄録誌上報告

平成24年度開始の各課題

目次

	研究代表者名	課 題 名	研究期間	ページ
2年目の研究課題				
(1)	H23-エイズ ---般-001 湯永 博之	安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	23-25	8
(2)	H23-エイズ ---般-002 片野 晴隆	エイズ患者におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスが原因となる疾患の発症機構の解明と予防および治療法に関する研究	23-25	12
(3)	H23-エイズ ---般-003 明里 宏文	HIV-1感染・発症霊長類モデル研究:宿主内因性及び獲得免疫解析に基づく前臨床評価システムの最適化	23-25	16
(4)	H23-エイズ ---般-006 市川 誠一	MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究	23-25	20
(5)	H23-エイズ ---般-004 宮澤 正顕	APOBEC3分子のタンパク質レベルの機能性多型を基礎としたHIV-1複製抑制機構の分子基盤の解明	23-25	24
(6)	H23-エイズ ---般-005 日高 庸晴	HIV感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究	23-25	28
3年目の研究課題				
(7)	H22-エイズ ---般-001 岡 慎一	多施設共同研究を通じた新規治療戦略作成に関する研究	22-24	34
(8)	H22-エイズ ---般-002 岡田 誠治	HIV感染症に合併するリンパ腫発症危険因子の探索と治療法確立に向けた全国規模多施設共同研究の展開	22-24	38
(9)	H22-エイズ ---般-003 佐藤 裕徳	HIVの構造、増殖、変異に関する研究	22-24	42
(10)	H22-エイズ ---般-004 杉浦 亙	国内で流行するHIV遺伝子型および薬剤耐性株の動向把握と治療方法の確立に関する研究	22-24	46
(11)	H22-エイズ ---般-005 仲尾 唯治	外国人のHIV予防対策とその介入効果に関する研究	22-24	50
(12)	H22-エイズ -指定-006 山本 政弘	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	22-24	54
(13)	H22-エイズ -若手-007 武内 寛明	霊長類ゲノム情報を利用した抗エイズウイルス自然免疫因子の探索およびその新規エイズ治療法への応用	22-24	58
(14)	H22-エイズ -若手-008 鳴海 哲夫	HIV侵入の動的超分子機構を標的とするケミカルバイオロジー創薬研究	22-24	62

	研究代表者名	課 題 名	研究期間	ページ
1年目の研究課題				
(15)	H24-エイズ --般-002 塚原 優己	HIV母子感染の疫学調査と予防対策および女性・小児感染者支援に関する研究	24-26	66
(16)	H24-エイズ --般-003 安岡 彰	ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	24-26	70
(17)	H24-エイズ --般-004 坂田 洋一	血友病とその治療に伴う合併症の克服に関する研究	24-26	74
(18)	H24-エイズ --般-005 足立 昭夫	抗ウイルス宿主因子を基盤とする新規抗HIV戦略の開発・確立に向けた系統的研究	24-26	78
(19)	H24-エイズ --般-006 俣野 哲朗	HIV持続感染成立機構とその防御機序に関する研究	24-26	82
(20)	H24-エイズ --般-007 滝口 雅文	HIV-1の薬剤・免疫耐性変異獲得機序の解明と新規治療法を目指した基盤的研究	24-26	86
(21)	H24-エイズ --般-008 横田 恭子	HIVの潜伏・再活性化および慢性的免疫活性化を左右する細胞因子・免疫応答の解明とその制御	24-26	90
(22)	H24-エイズ --般-009 加藤 真吾	HIV検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究	24-26	94
(23)	H24-エイズ --般-010 木原 正博	高リスク層のHIV感染監視と予防啓発及び内外のHIV関連疫学動向のモニタリングに関する研究	24-26	98
(24)	H24-エイズ --般-011 木原 雅子	複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究	24-26	102
(25)	H24-エイズ --般-012 嶋田 憲司	地方公共団体及びNGO連携による個別施策層を含めたHIV対策に関する研究	24-26	106
(26)	H24-エイズ --般-013 樽井 正義	地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究	24-26	110
(27)	H24-エイズ -指定-001 木村 哲	血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究	24-26	114
(28)	H24-エイズ -指定-002 白阪 琢磨	HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	24-26	118
(29)	H24-エイズ -指定-003 江口 晋	血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植適応に関する研究	24-26	122
(30)	H24-エイズ -若手-001 柳澤 如樹	わが国のHIV感染者における慢性腎臓病の有病率と予後に関する研究	24-26	126
(31)	H24-エイズ -若手-002 中道 一生	HIV陽性者における進行性多巣性白質脳症に対する高精度検査技術の開発および診断への応用	24-26	130

2年目の研究課題
